

調査月報 2018/05

目 次

A.台湾経済	1. 景 気 01	2. 物 價 01	3. 失 業 率 01	
	4. 通 関 貿 易 02	5. 鉱 工 業 生 產 02	6. 小 売 業 売 上 高 02	
B.トピックス	2018年第1四半期の実質GDP成長率の速報値(支出面) 03			
C.経済統計	台灣主要經濟指標 04	物 價 指 數 06	雇 用 概 況 06	貿 易 統 計 07
	鉱 工 業 生 產 指 数 10	商 業 売 上 高 伸 び 率 10	為 替 相 場 11	對 台・對 外 投 資 統 計 13

みずほ銀行
台北支店/台中支店/高雄支店

1.景気 2018年3月**A.景気総合判断点数**

景気総合判断点数は23点で、先月より1ポイント下落し、景気対策信号は2か月連続で安定の緑ランプとなった。当局は世界的な景気回復に伴い、輸出の堅調は維持出来る見込み。一方、米中貿易摩擦の影響や金融市場の変動、地政学的な政治リスク等の懸念材料もある。

B.景気動向指数

①景気一致指数 (当面の景気動向を示す指数)

電力(企業)総用電量、鉱工業生産、非農業雇用人数等の増加で前月比0.12%上昇した。

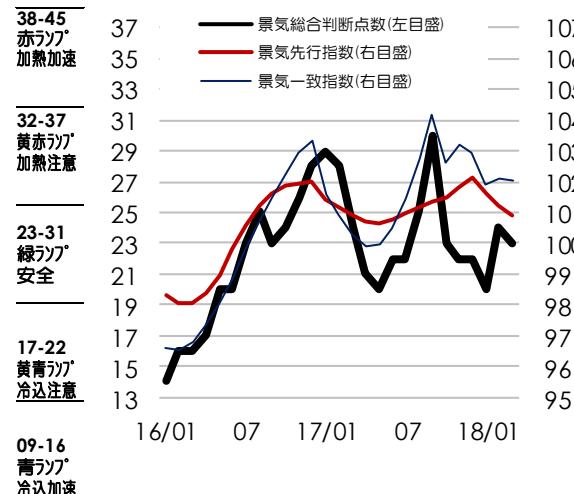
②景気先行指数 (数ヶ月先の景気動向を示す指数)

輸出受注指数、製造業営業気候テスト点指数の下落で前月比0.17%下落した。

※SEMI=国際半導体製造装置材料協会

※M1B=現金通貨+普通預金+個人向け普通貯蓄預金+当座預金

図 A1.景気総合判断点数と景気動向指数の推移 出所:国発会

**2.物価 2018年3月****A.卸売物価:前年同月比+0.46%**

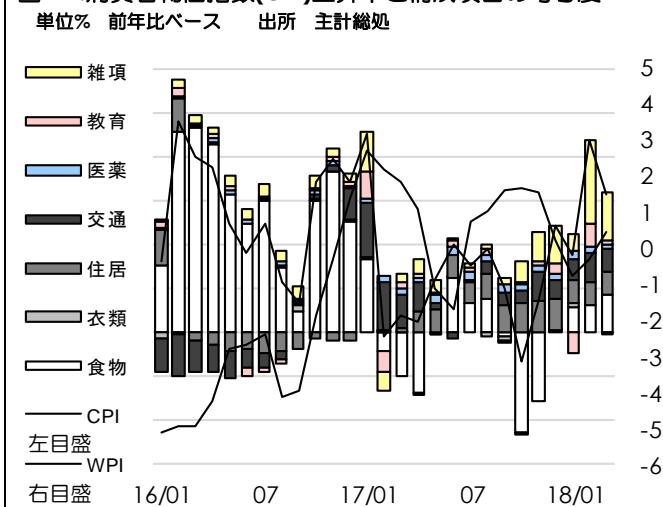
化学材料とその製品、石油及び鉱製品、基本金属及び薬品類等の価格が上昇したが、農製品関連価格が下がった事の影響で一部の値上がり幅が相殺された。

B.消費者物価:前年同月比+1.57%

CPIの上昇は5か月の連続上昇を見せた。主要分類別では下記の4項目が上昇した。

- ①雑貨類はタバコ増税により、値上幅が拡大した。
- ②交通通信類は国際原油価格の引上げから、燃料価格及び運送料金の値上で上昇した。
- ③食品類では野菜、水産品、乳製品、肉品等の値上がりにより、上昇した。
- ④医療・保険類では17年4月から患者の部分的負担額が上がった影響で、医療費の値上げにより、上昇した。

図 A2.消費者物価指数(CPI)上昇率と構成項目の寄与度

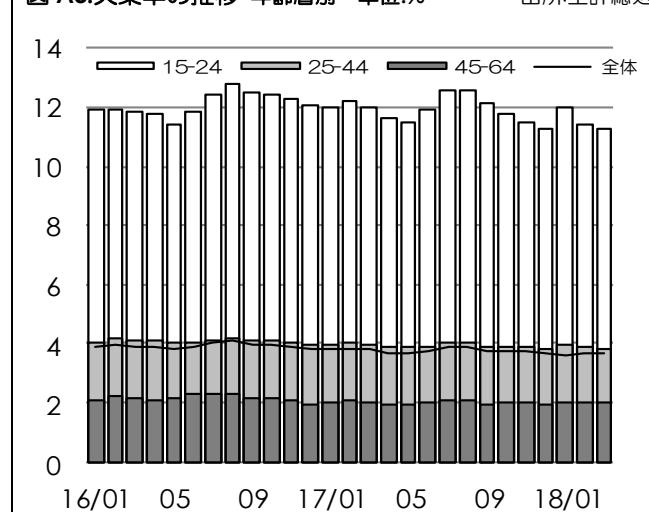
**3.失業率 2018年3月****A.失業率 3.66%**

前月より0.04ポイント下落失業者数は43.3万人で前月より5千人減少した。内、初めての求職活動で仕事が見つからない人は2千人減少し、仕事内容への不満から離職した人は1千人減少した、季節性また臨時性業務の終了による失業者や業務縮小又は、廃業で離職した人はそれぞれ2千人減少した。

B.就業 就業者数は前年同月比+0.79%の1,140.3万人

業種別では、製造業は前年同月+0.64%の306万人、第三次産業は同+0.94%の677万人となった。産業別就業者数の構成比を見ると、製造業26.80%、第三次産業59.34%、その他(一次産業+製造業を除く二次産業)13.86%となった。

図 A3.失業率の推移 年齢層別 単位:%



4.通関貿易 2018年3月**a. 輸出**

3月輸出額 299.9 億 US\$、前年同月比 16.7% 増。内、対中国の増幅は 30% を超え、輸出の 44.8% 割合を占めた。日本も 18.8% 成長した。貨物別では化学品の年増率が 32.9% で、機械は 27.2% 増加に至った。

b. 輸入

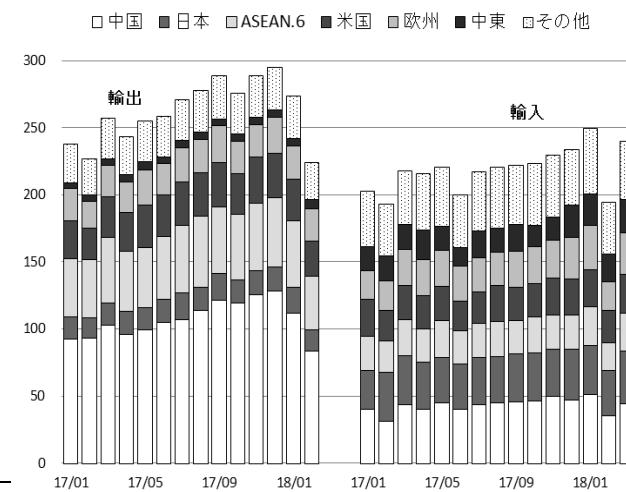
3月輸入額 239.9 億 US\$、前年同月比 22.7 億 US\$ (+10.4%) 増加した。中東、欧州等は増加した。又、貨物別では鉱製品、電子部品、資本設備は増加した。

c. 収支

前年比ベースでは、全体で 60 億 US\$ 黒字額増加した。内、対中国（含む香港）増加幅が最大、対 ASEAN、米国減少した。赤字額は対日本減少、対欧州増加した。

図 A.輸出入 国別実績 億 US\$

出所：財政部

**5.鉱工業生産 2018年3月****A.鉱工業生産全般**

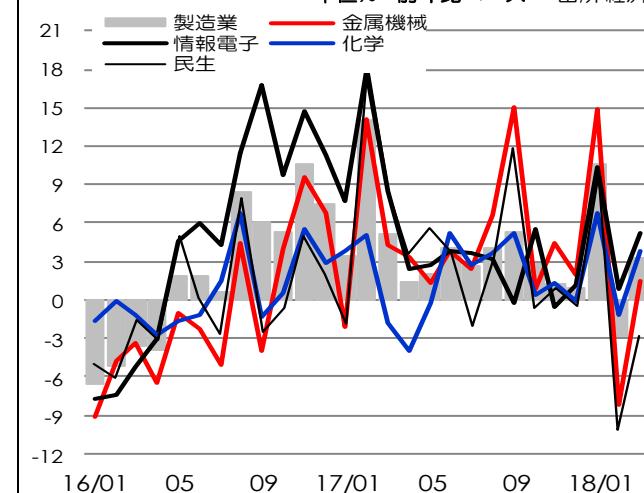
3月工業生産指数は 117.14 で、前年比 +3.09%、製造業の輸出の好調が電力需要の増加で堅調な伸びとなった。

B.製造業 4 大産業別

金属	自動化に伴う半導体向け生産設備の増産が続いたが、製鉄所のメンテナンス入り、熱延鋼板等の減産で小幅成長になった。
機械	HPG 向け IC の需要が強まり、半導体受託生産伸びで好調な伸びとなった。
電子	国際原油価格の上昇、春節後の需要増加でプラス成長となった。
情報	化学
民生	タバコの増税や既製服の海外受注が減少したため、年増率 -2.78% となった。

図 A5.製造業 4 大産業別伸び率推移

単位% 前年比ベース 出所:経済部

**6.小売業売上高 2018年3月****A.小売業全般**

3月売上高は輸入車の販売好調や IT 製品・家電業の販促で前年同月比 +5.0% の 3,414 億元となった。総合小売業は百貨店の在庫クリア、母の日の前倒し販促等の主催により、+4.9% の 955 億元の売上高成長を見せた。

B.総合小売業

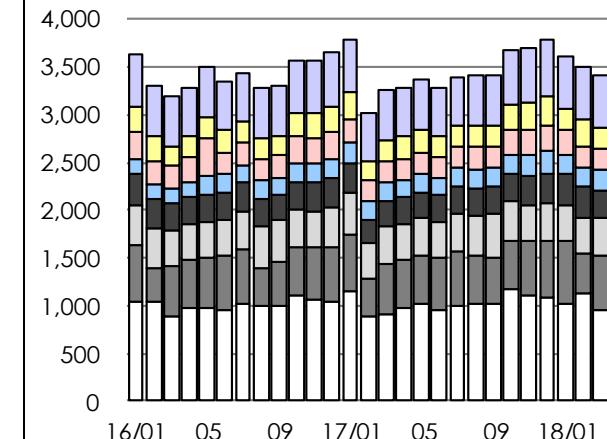
百 貨 店	売上高は前年同月比 +4.3% 増の 227 億元となつた。
スー パー	売上高は前年同月比 +5.3% の 170 億元となつた。
コンビニ	売上高は前年同月比 +8.5% 増の 275 億元となつた。
量 販 店	売上高は前年同月比 -4.5% 減の 141 億元のマイナスに転じた。

C.外食業：新ブランドや「ミシュランガイド」等が発表されたことで外食消費を促した。

図 A6.小売業売上高 業界別 億 NT\$

出所:経済部

総合小売	自動車等	食品飲料	3C商品
燃料	家庭用品	衣類	その他



2018年第1四半期の実質GDP成長率の速報値(支出面)

台湾行政院は2018/4/27、2018年Q1の実質GDP成長率の速報値を発表した。以下がその概要である。

1.内需 ①消費

個人消費は、雇用状況の改善に伴う賃金の伸び、株式市場の好調などが、自動車やスマートフォンの販売好況をもたらし、小売業売上高及び外食業売上高も上昇し、3%台の伸びとなった。政府消費も、年初の公務員賃金の調整で6%台の好調な伸び率となった。

②資本形成

営業用乗用車や貨物船などの新規購入や建設事業への投資が伸びたが、半導体設備の投資減少や在庫減少により、2017年第3四半期からマイナス成長が続いている。

2.外需 ①輸出

世界的な景気回復と新興技術の応用拡大により、半導体や機械の需要が旺盛になったほか、金属、プラスチック製品、化学品、運送機器も2桁の成長となった。加えて、外国人旅行客の増加もあり、6%台の好調な伸び率となった。

②輸入

半導体設備投資の減少はあるが、輸出需要の拡大に牽引され、国際原材料の値上げもあり、5%台の伸び率となった。輸入の伸び率が比較的堅調だったため、純輸出のGDP成長率への寄与度が1%未満となった。

図表1-1. 実質GDPと各支出面の構成項目の成長率 単位: %

対前年同期成長率	GDP	2017				2018		
		通年	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1(a)	
対成長率の寄与度	内需	内需計	0.94	2.19	1.87	-0.50	0.32	2.39
	内需	個人消費	2.34	1.81	2.05	2.62	2.89	3.02
	内需	政府消費	-1.06	-4.83	0.84	0.90	-1.32	6.27
	外需	資本形成	-1.22	8.29	2.10	-8.97	-4.69	-1.70
	外需	輸出	7.43	7.34	5.08	11.28	6.00	6.03
	外需	輸入	5.20	7.64	5.01	6.82	1.78	5.61

註: 1.(a)速報値の統計(advance estimate)。

2.資本形成は政府、公営、民間固定投資及び在庫変動を含む、参考資料が欠けていた為、速報統計は資本形成の合計数のみを計入、5月詳細資料の公表に改めて政府、公営、民間固定投資及び在庫変動を公示する予定

図表1-2. 実質GDP成長率(支出面) 単位: %

